戦後福山市重度・重複障害児教育史研究

－資料の収集・分析と関係者への聞き取り調査－

○吉井涼　今中博章　高橋実　我妻享

１．問題の所在と目的

戦後日本の養護学校義務制実施以前においては、知的障害児や肢体不自由児、重度・重複障害児の多くは、就学猶予・免除体制のもと、学校教育の対象外とされていた。こうした中、知的障害児施設において入所児に対する教育実践が行われたり、肢体不自由児施設内に小・中学校の特殊学級が設けられたりするなど、福祉施設が学校教育を補完していた（村田，1997）。1956 年の公立養護学校整備特別措置法の施行を契機に、肢体不自由児施設内の特殊学級や分校は、肢体不自由養護学校へと転換し、重度・重複障害児を受け入れるようになる（文部省，1978）。1975 年度以降、就学の免除者は減少に転じ、1979 年に養護学校義務制が実施された（中村，2019）。この過程において、肢体不自由養護学校は、それまでにない教育を求められた。1963 年の養護学校小学部学習指導要領肢体不自由教育編では、障害の重い子どもへの教育に特例が認められたものの、具体は示されず、各学校・各教師にゆだねられていた。

本研究は、福山市における重度・重複障害児教育の成立と展開を、福祉・医療施設との関係性に着目しながら検討することを目的とする。まずは、同市の学校と施設に関する資料の発掘と整理を行う。さらに、当時の福山養護学校と福山若草園を知る関係者へ聞き取り調査を行い、資料を補完する。

福山市では、1962 年、肢体不自由児施設である広島県立若草園福山分園が開設された（現、広島県立福山若草園）。その後、1967 年に、若草園福山分園内に広島県養護学校福山分校が開校し、同校は 1968 年に独立校となった（現、広島県立福山特別支援学校）。

教育実践は、法律を含む国や県の方針に沿って展開されるだけでなく、各地域の実情や各地域で醸成されてきた考え方が何らかの形で反映されているものと考えられるため、重度・重複障害児教育史研究においても、地域の教育現実に立脚してその歴史を明らかにすることが必要である。

２．研究方法

福山養護学校と福山若草園に関する文書資料と口述資料の調査･収集を行う。分析の観点として、⑴福山養護学校の在籍児童生徒の障害の重度・重複化の実態と変化､⑵ 福山養護学校の教員の問題意識と教育実践、教育課程の整備過程の２点を設定する。本研究は歴史研究であるため、用語は当時の表現を用いる。なお、福山市立大学研究倫理審査委員会の承認を得ている。

３．研究結果

１）文書資料・口述資料の収集結果

収集された文書資料からは、福山養護学校開校初期の在籍児童生徒の実態や教師の問題意識を見ることができる資料が発掘されたものの、系統性に欠けている。口述資料については、現在までに２名に調査の打診を行い、１名に聞き取り調査を実施した。その際、当時の資料を提示しながら当時を振り返り、自由に語ってもらった。今後、対象者を増やし、聞き取り調査を通じた口述資料の収集を続けるとともに、各調査対象者が所有する文書資料の調査を行う。

２）福山養護学校の在籍児童生徒の実態

どのような子どもが「障害が重い」子どもとみなされたのかを検討した。先行研究では、肢体不自由養護学校における障害の重度・重複化とは、原因疾患がポリオから脳性まひへと移り変わり、その中で精神遅滞を伴う重度の脳性まひ児が増加していったことと指摘されている。福山養護学校でも在籍する子どもの多くが脳性まひ児であったが、知的能力の面でみると、1972 年時点では、多くは平均かそれ以上であった（福山養護，1972）。一方､歩行や移動､言語の能力や ADL においては、1960 年代と比べ、1980 年代には低下していた（1967 年学校要覧; 1981 年学校要覧）。

３）福山養護学校の教師の問題意識

障害児の教育を受ける権利をいかに保障するかという点と、1971 年に新設された養護・訓練に対する教師らの受け止めという点について検討を行った。学校開校後数年間は「重障児」をどう受け入れるかが議論されていた。当時､「重障児」については、条件付き入学であり、親の介助が必要であったが､「外部からの父母の要求と、内部での動きが結合」したことで、入学者の選考基準が変更された（福山養護学校, 1988）。養護・訓練に関しては､「真に全教職員の課題になっていない」ことが指摘されていた（福山養護, 1972）。

４．まとめ・考察

障害の重度・重複化といった際には、起因疾患の変化、知的能力や ADL 等の点からだけでなく、教師自身がどのような「まなざし」を向けていたかにより変化すると考えられる。子どもの実態に関するデータの整理だけでなく、教師が子どもの障害をどう認識していたのかについても丁寧に見ていく必要がある。

引用文献

福山養護（1972）昭和 47 年度研究紀要.
福山養護（1988）創立二十周年記念誌.